

2026 年度第二次教育学研究科 入学試験問題(直接解答)

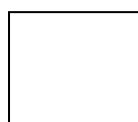
博士課程前期課程	乳幼児教育研究領域	試験科目 専門科目	受験番号 番
----------	-----------	--------------	-----------

解答記入不可

↑

問題 1

2022 年に制定された「こども基本法」では、「『こども』とは、心身の発達の過程にある者をいう」(第二条)とされ、子どもとする年齢の上限は定められていない。本法律では、なぜ子どもを年齢で規定しないのか、子ども家庭福祉に関わる事業の課題を踏まえながら、その理由について説明せよ。



3枚中

1

2026 年度第二次教育学研究科 入学試験問題(直接解答)

博士課程前期課程	乳幼児教育研究領域	試験科目 専門科目	受験番号 番
----------	-----------	--------------	-----------

解答記入不可

↑

問題 2

ジョン・ボウルビィ (John Bowlby) のアタッチメント理論の観点から、乳幼児期の育ちについて【 】内の言葉を4つ以上使って説明せよ。【 愛着 安全基地 情緒的安定 養育者 信頼関係 探索行動 自己肯定感 】



3枚中

2

2026年度第二次教育学研究科 入学試験問題(直接解答)

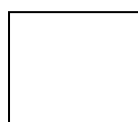
博士課程前期課程	乳幼児教育研究領域	試験科目 専門科目	受験番号 番
----------	-----------	--------------	-----------

解答記入不可

↑

問題3

幼児は自分の心の動きを、音や音楽、身体表現、造形などを仲立ちにして表現するが、領域「表現」において期待される幼児の育ちの方向性をふまえ、幼児の表現活動において保育者が果たす役割や援助のあり方について述べよ。



3枚中

3

## 2026 年度 第二次 教育学研究科入学試験問題

### 博士課程前期課程／乳幼児教育研究領域／専門科目（解答例）

#### 解答例

#### [問題 1]

2022 年に制定されたこども基本法で、「子ども」の年齢の上限が明確に定められていない理由は、個人差の尊重、若者支援の包含、国際的枠組みとの整合、将来の政策の柔軟性の確保などの考え方による。

（子どもの状態）子どもの成長や自立の時期には個人差が大きく、子どもから大人への移行時期は、その子どもが有する特性や既往歴、家庭環境を含む成育環境により大きく異なる。例えば、障がいがある場合、18 歳や 20 歳といった一律の線引きでは実態に合わない場合があり、その子どもに応じて柔軟に対応できるよう年齢の上限を定められなかった。

（子ども家庭福祉に関わる事業の課題）子どもから大人への移行時期の個人差に関連して、日本の青少年期の教育、子ども家庭福祉では、若者も支援対象に含めている。例えば大学では、状況によっては 20 代後半で教育や福祉的支援を必要としている学生も在籍しており、児童養護施設に在籍しながら大学に通学する 18 歳以上の学生もいる。また近年では、ひきこもりや若年層の生活困窮者支援の必要とされている。さらに、障害児入所施設では、「福祉型」と「医療型」いずれにおいても自立支援機能を有し、入所時からの退所後を見据えた支援計画の実践による自立支援を行っているが、18 歳以上の在籍児は、「福祉型」では約 6%、「医療型」では 86.8%に及ぶ。このように 18 歳以上でも経済的・社会的に不安定な場合や、福祉、教育支援が必要な状態が認められる。

（民法との関連）このような子どもから大人への移行期にある若者支援を切れ目なく行う必要性があり、2022 年に民法が改正され成年年齢は 18 歳に引き下げられたが、こども政策では子どもの特性や生活実態に応じた支援を行うために、より広い視点から「こども」の定義を「心身の発達の過程にある者」という包括的な定義とした。

#### [問題 2]

ジョン・ボウルビイのアタッチメント理論は、乳幼児期の育ちを理解するうえで中核的な視座を提供している。この理論において重視されるのは、乳幼児が特定の養育者との間に形成する愛着関係である。乳幼児は、生理的欲求を満たしてもらっただけでなく、不安や恐れを感じた際に抱きしめられ、応答的に関わってもらっただけでなく、経験を通して、「この人は自分を守ってくれる存在である」という信頼関係を築いていく。

このような信頼関係に支えられた養育者は、子どもにとっての安全基地として機能する。すなわち、子どもは安心できる拠点を背後にもつことで、外界へと関心を広げていくことが

可能となる。安全基地の存在は、単に依存を強めるものではなく、むしろ自立的な発達を促進する基盤となる点に理論的意義がある。

実際、安心感に支えられた子どもは、周囲の人や物へ積極的に働きかける探索行動を示すようになる。探索行動は、認知的発達や社会的学習を推し進める重要な活動であり、ここで得られる成功体験や発見の喜びが、さらなる学びへの意欲を高めていく。そして、この一連の過程を下支えしているのが、安定した情緒的安定である。不安が過度に高い状態では探索は抑制されるため、情緒的安定は発達の前提条件といえる。

### **[問題3]**

幼児は、音や音楽、身体表現、造形など多様な手段を通して、自分の感じたことや考えたことを主体的に表現しようとする。領域「表現」では、幼児が感じたことやイメージをのびのびと表現し、創造性を豊かにしていくことが育ちの方向性として示されている。そのため保育者には、まず幼児が表現したくなるような環境構成を行い、素材や道具、空間、時間を十分に保障することが求められる。

また、幼児の表現は未分化で偶発的なことが多いため、保育者は幼児の思いや意図を丁寧に受け止め、安心して表現できる心理的な安全感を保障する必要がある。さらに、幼児の表現を評価したり結果を求めたりするのではなく、過程を尊重し、幼児の気づきやイメージを言葉で受け止めて意味づける援助が重要となる。

加えて、幼児同士が互いの表現に触れ合うことで新たなイメージが広がるため、保育者は共感的な関わりや仲間との協同的な表現活動を促す働きかけを行うことが求められる。こうした援助を通して、幼児は自分の思いや願いを多様な方法で表現し、創造性や自己発揮の力を育てていくことができる。

## 2026 年度 第二次 教育学研究科入学試験問題

博士課程前期課程／乳幼児教育研究領域／専門科目（出題意図）

### 出題意図

#### [問題 1]

こども基本法は、乳幼児教育領域の研究や実践の前提となる法律である。その法律における「子ども」の定義、その解釈に関する理解を確認する。

#### [問題 2]

ジョン・ボウルビィのアタッチメント理論は、乳幼児期の育ちを理解するうえで重要な観点を提起している。これに関して一定の知識を持つておくことは、教育や乳幼児に関する研究をする上で必要であると思われるため出題した。

#### [問題 3]

領域「表現」の問題を出題する意図は、受験者が幼児の表現の特性と育ちの方向性を理解し、それに基づく保育者の専門的援助を論理的に説明できるかを確認する点にある。幼児の表現は未分化で多様であるため、環境構成や心理的安全の保障、過程の尊重など、保育者の援助の質が育ちに影響を及ぼす。このような理解を統合的に述べられるかどうかを確認することが出題の目的である。